

第4回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会
次第

日時 平成27年12月14日（月）午後6時から
場所 小金井市役所本庁舎3階 第一会議室

【次第】

1 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

(1) <基本目標1>における施策・取組・指標等について 【資料13-1】

(2) <基本目標2>における施策・取組・指標等について 【資料13-2】

(3) <基本目標3>における施策・取組・指標等について 【資料13-3】

2 その他（意見交換等）

【配布資料】

別紙配布資料一覧のとおり

小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会

配 付 資 料 一 覧

	No.	資 料 名	備 考
第4回 (12月14日)	13-1	小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案） <基本目標1>	
	13-2	小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案） <基本目標2>	
	13-3	小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案） <基本目標3>	
	14	これまでの委員会でのご意見	

基本目標1 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち

自然環境・住環境という従来の強みを活かしながら、駅周辺を中心としたまちのにぎわいの創出や、小金井らしい地域産業を育成することで地域を活性化し、小金井の魅力を形成します。さらにその魅力を市内外に広く発信することで、市外から人を呼び寄せ、回遊性を高めることで、さらになる地域活性化を図るとともに、長期的には移住・定住につなげることを目指します。

(1) 基本的な考え方

16～39歳の市民を対象とした進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査(以下、意識調査)では、8割強の人が市外からの転入者でした。進学・就職・転職や結婚などを機とした転居のなかで、その多くが通勤・通学のアクセスのよさや住宅事情などの交通・不動産にかかわる理由で小金井市を選んでいることが分かりました。それとともに、みどりや街の雰囲気など、長く基本構想で理念として掲げてきた「みどりが萌えるまち」に惹かれる人も多くなっています。

これまで本市が進めてきた「みどりの保全・創出」を継続・発展させながら、新たに取り組みはじめた文化振興や駅周辺の再開発、さらには創造的産業の育成・振興を進めることで、閑静な住宅街である従来の市の魅力にくわえ、小金井ならではの文化的・経済的な活力を生み出すことを図ります。そして、その魅力を市内外に発信するシティプロモーションに取り組むことで、市民の定住を促すとともに、市外からの市を訪れる人(交流人口)を増やすことで、市の魅力を周知し、移住に至るよう促すことで、市内への人の流れを生み出します。

さらには、多様な主体が小金井市で交わることで、相乗効果を生み出す環境の充実を図り、まちの魅力につなげていきます。

(2) 講ずべき施策の基本的方向

基本的方向1: 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進

- 施策① 豊かなみどりと良好な住環境を守るまちづくりの推進
- 施策② 駅周辺などのにぎわいを通じたまちの魅力の創出
- 施策③ 小金井の強みを生かした地域経済の活性化

基本的方向2: 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進

- 施策① シティプロモーションの推進
- 施策② 地域資源を活用した交流人口の拡大

基本的方向3: 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現

- 施策① 多様な主体が関わりあう環境の充実
- 施策② 交流、協働、連携等にもとづいた活動の充実

(3) 重要業績評価指標(KPI)

指標	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)
市民1人あたりの公園の整備面積	6.77㎡	6.84㎡
市街地再開発事業施行完了地区数	1地区	2地区
東小金井駅北口土地区画整理事業の建物移転進捗率	46%	100%
東小金井事業創造センター卒所予定者の市内定着率	—	50%
小売業の年間商品販売額	650億円	維持
しごとづくりに関する相談件数	—	100件
観光協会ホームページアクセス数	74,982件	108,000件
地域情報発信サイトの市ホームページへの連携	—	拡充
市民交流センターの稼働率	84.4%	維持
はげの森美術館の入館者数	5,546人	5,900人
桜まつりなどの来場者数	約221,000人	380,000人
国際交流事業の参加人数	190人	293人
市民協働支援センター準備室の相談件数	71件	100件

基本的方向1: 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進

小金井に住んでみたい、住み続けようと思ってもらえるためには、人を惹きつける多様な魅力が欠かせません。そのため、市が取り組んできたみどりの創出や、閑静な住宅地としての魅力を大事にしながら、駅前などの空間(ストック)を有効に活用したにぎわい創出や、教育・研究機関などの強みを生かした産業の創出に取り組めます。それを通じて、文化的・経済的な活力を生み出し、多様な魅力が共存する小金井らしいまちづくりを進めます。

施策① 豊かなみどりと良好な住環境を守るまちづくりの推進

- 公園・緑地などの計画的な整備による自然環境の創出とはげの保存
- 既存の公園の充実と児童遊園などの個性化
- 適正な土地利用の規制・誘導と市街地形成による計画的な都市づくりの推進
- 自然と調和した住環境の整備、個性ある坂道づくり

施策② 駅周辺などのにぎわいを通じたまちの魅力の創出

- 「市の玄関口」としての武蔵小金井駅周辺のまちづくりの推進
- 東小金井駅周辺における商業・業務・文化機能の導入の推進
- 新小金井駅周辺における自然環境を活かしたまちづくりの推進
- 駅前の既存ストックを活用した商業等の集積の促進
- 魅力的な個店や地元商業の支援

施策③ 小金井の強みを生かした地域経済の活性化

- 東小金井事業創造センターにおける産業の高付加価値化と創業・起業支援
- 地元産業の育成と創業・起業者の市内定着の促進
- 市内大学と連携した教育産業・クリエイティブ産業の育成・集積の促進
- 住宅地という街の性格を生かし、地域資源を活用した生活関連ビジネスの育成
- 大学の集積を生かした、農商工が連携したアフターコンベンションの展開

基本的方向2: 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進

みどり、住環境、文化、産業など、多様な魅力を形成しながら、それを広く周知するシティプロモーションに取り組めます。市民にとっては、小金井の魅力をあらためて知ること、暮らしを楽しむことにつながるだけでなく、シビックプライド(まちへの愛着)を醸成することで定住の動機づけを図ります。一方、市外に住む人にとっても、長期的には移住・定住へとつなげることを視野に入れ、小金井を訪れてみようというきっかけとなり、実際に足を運ぶなかで小金井ファンとなってもらうことを目指します。

施策① シティプロモーションの推進

- ホームページ等の各種媒体を活用した地域情報の掲載
- イメージキャラクター「こきんちゃん」や観光大使の活用
- 駅周辺の拠点などにおける効果的・効率的発信、観光案内の整備

施策② 地域資源を活用した交流人口の拡大

- まちなか観光の充実を通じた交流人口の増加
- 名勝小金井(さくら)の並木の復活と緑道の整備
- 芸術文化振興の拠点となる、はげの森美術館、市民交流センターにおける魅力的な事業の実施
- 農業、商業、観光が連携した時間消費型サービスの実施による市内での回遊の促進
- ふれあい農業の育成や地場産品の販売ルート拡大・ブランド化の支援

基本的方向3: 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現

市民や団体、市などの多様な主体の取組が相互に関連しあい、相乗効果を生むなかで、小金井の魅力は形成されてゆくものであり、その交流・協働・連携が生み出しやすい環境そのものも、まちの魅力となり得るものにとらえ、誰もが地域での生活を楽しみ、ふれあいとつながりを生み出しながら、参加と協働によるまちづくりを進めます。

施策① 多様な主体が関わりあう環境の充実

- 様々な活動団体の情報発信や交流の場づくりを通じた団体間の連携の支援
- 町会・自治会、子ども会、PTAなど市民団体と市の連携の推進
- 農商工および市民等の連携を推進する中間支援組織の仕組みづくり
- 市民協働を支える体制の整備

施策② 交流、協働、連携等にもとづいた活動の充実

- 都市間交流の促進
- 国際交流事業の充実
- 市民活動団体、NPO、企業、大学との協働の推進
- 市民やNPOと協働した芸術文化の振興
- 大学・研究機関、地元企業との交流の促進
- 多様な手法による市民参加の推進

基本目標2 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち

将来にわたって安定した人口構成を維持するためのまちづくりを推進するため、若い世代が安心して結婚・出産・子育ての切れ目ない支援や環境の整備を図ります。さらに、子育て・子育ての観点からのみならず、保護者が子育てをしながら働きやすいワークスタイルをとることができるよう、長期的な視野に立ち、多様な働き方を実現できる社会の実現を目指します。

(1) 基本的な考え方

子ども子育てニーズ調査(平成26年度実施)や市民意識調査から、小金井市には2人以上の子どもを育てる世帯が多いことが分かっています。さらに過去3年間では合計特殊出生率も上昇していますが、市民意識調査では、子どものいることで住みやすさの評価が下がることが分かっています。子どもを産み育てようとする市民が少なくないと推察されるなか、安心して子どもを産み育てられるような支援や環境整備を行うことが求められます。その取組は、ひいては、将来の小金井市民となる子どもを増やし、安定した人口構成の維持につながるものです。

そのためには、福祉分野を中心とした子育て支援はもとより、教育分野において子どもがのびのびと育ち、学ぶことのできる学習環境の充実も求められます。特に、複数の大学が立地している強みを生かし、学校教育のみならず、産業とも連携して教育を盛り上げることは、子どもの学びに熱意のある世帯を呼び込みきっかけともなるものです。定住・移住をとともに促進する取組としても、子育て・子育て・学びの充実を進める必要があり、また子どもを育てやすい就労環境の実現も大切です。現在、多くの市民は市外に通勤していますが、コミュニティビジネスの創業や職住近接で就労できる場や機会を設けることで、ワークライフバランスを実現し、子どもを育てながら働くことができるような取組を進めます。

子どもと両親がともにのびのびと、安定した暮らしを送ることができるようにすることで、子育て世代の住みやすさの向上につながり、定住・移住を促進します。

基本的方向1:子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実

福祉と教育をはじめとする各部門が連携し、妊娠期から出産、そして乳幼児期から学童期に至る子育てを切れ目なく支援する体制を整えるとともに、地域における支え合いの土壌を育むことで、子育てに対する負担や不安を和らげ、安心して子育てを行い子育ての喜びを享受できるように努めます。それによって子どもを産み育てようとする市民の希望に応え、小金井市で子育てをしようと思ってもらえる環境を整えます。

施策① すべての子育て家庭への支援

- すべての子育て家庭に向けた情報提供、相談体制などの充実
- 子育て、子育てに困難を抱える家庭への支援
- 地域における子どもの居場所の活用を含めた学童保育業務の充実
- 市、民間、市民による保育環境の整備・拡充

施策② 地域全体で子育て家庭を見守る体制の構築

- 子育てを支援する地域のネットワークの充実
- 地域のおとな、高齢者などとの交流の場の提供や活動の支援
- 子育て関係のNPOや市民団体の活動の積極的広報による利用促進

(2) 講ずべき施策の基本的方向

基本的方向1:子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実

施策① すべての子育て家庭への支援

施策② 地域全体で子育て家庭を見守る体制の構築

基本的方向2:子どもの育ち・学びのための環境の充実

施策① 子どもたちがのびのび育つ環境の充実

施策② 子どもたちがいきいき学べる環境の充実

基本的方向3:小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現

施策① 職住近接となるしごとの創出

施策② 働きながら子育てができる環境の整備

基本的方向2:子どもの育ち・学びのための環境の充実

子育ては、子育てとともに、子どもの成長・発達における車の両輪のようなものであり、子どもが自らのびやかに育っていくことを支援することは、将来の小金井市を担う主体となる子どもたちにとって大切なことです。

そのためには、子どもたちが、多様な人とのふれあいや豊かな経験を得ながら、育ち、学ぶことができる環境をつくる必要があります。子どもたちが自立し、地域、そして社会へと参画していくため、学校教育はもとより、大学や教育産業をはじめとする関係機関と連携を図りながら、子育て・学びの環境の充実を進めます。

施策① 子どもたちがのびのび育つ環境の充実

- 自然環境を生かした子どもの遊びと学びの環境づくり
- 子どもの自立を育む体験活動の充実
- 学校の校庭開放による地域と子どもの交流の促進
- 大学等と連携した子どもの遊び場の充実
- 地域において世代を超えて交流できる機会・場の提供

施策② 子どもたちがいきいき学べる環境の充実

- 開かれた学校づくりによる、家庭・地域・学校の連携促進
- 大学と連携した、まちの資源を活用した地域教育力の向上
- 新しい時代に対応した教育内容の充実
- 大学などと連携した研究や大学生などのボランティアの活用促進

(3) 重要業績評価指標(KPI)

指標	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)
待機児童数	257人	0人
認定こども園の設置数	—	1園
子育て支援ネットワークの参加団体数	51団体 44機関	56団体 46機関
冒険遊び場開催回数	—	週5回
放課後子ども教室の推進委員会形式による実施件数	9件	維持
授業の内容がよく分からない児童・生徒の割合	小学校 15.6% 中学校 25.0%	小学校 11.6% 中学校 21.0%
よりよい地域社会を目指して地域貢献活動に関わろうとしている児童生徒の割合	小学校 53.9% 中学校 39.3%	小学校 61.9% 中学校 47.3%
しごとづくりに関する相談件数	—	100件

基本的方向3:小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現

子育て・子育ては、子どものみならず、子どもを育てる保護者が充足した暮らしを送ることも大切なことです。子ども子育てニーズ調査からは、就労していない母親が半数いるなか、その多くが就労に対する意向を持っていることが分かっています。母親の意向を踏まえ、子育てをしながら働くことのできる機会や場をつくる必要があります。また、子どもの育ちには、母親のみならず父親と過ごす時間も大切であると考え、ワークライフバランスの実現も重要となります。

そこで、働き方という側面において、コミュニティビジネスの創業・起業の支援や、市内産業の育成を図ることで、職住近接を実現する小金井らしい働き方が選択できるよう、中長期的な視野に立ってしごとの創出に取り組みます。

施策① 職住近接となるしごとの創出

- コミュニティビジネスの創業・起業の支援を通じた就労機会の創出
- IT等を活用したSOHO事業者への支援
- 関係機関の連携によるしごとづくりに関する機運の醸成

施策② 働きながら子育てができる環境の整備

- ワーク・ライフ・バランス社会の実現に向けた普及・啓発
- 様々な分野で活躍しようとする女性への支援
- 女性の就労に関する講座の開催
- 女性総合相談や各種支援の充実

基本目標3 時代にあった地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち

安全・安心を暮らしの基礎ととらえ、生活環境の整備や防災・防犯の取組を進めます。それとともに、安全・安心はもとより、市民一人ひとりが自己充足を得る場としても、現代社会に適した人と人とのつながりに根差した地域コミュニティの形成を図ります。それを通じて、だれもがいきいきと健康で、安全・安心に暮らすことのできるまちを目指します。

(1) 基本的な考え方

まちの安全・安心は、定住の基礎をなすものです。意識調査においても「住み続けたいまち」の要素として多くの人が選択しています。これらを踏まえ、防災・防犯はもとより、小金井の強みである生活環境・住環境の整備、そして健康、福祉などの分野とも連携し、総合的にまちの安全・安心の向上に取り組めます。

安全・安心の向上には、「自助」に加え、「共助」の重要性が指摘されるように、ハードや仕組みづくりのみならず、地域コミュニティの形成が大切です。町会・自治会への加入率が年々減少しているなか、地域のセーフティネットとして人と人とのつながりを見直し、核家族化や単身世帯の増加にも適応した地域コミュニティのあり方を検討します。

そのなかで、今後増加することが予想される高齢者への対応については、地域ケアの観点にくわえ、「現役世代」としていきいきと地域で活躍し、生きがいを感じながら暮らすことができるように努めます。そうすることで、世代や世帯構成に関わらず、安全・安心な暮らしを送ることができるまちづくりを実現します。

(2) 講ずべき施策の基本的方向

基本的方向1: 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進

施策① 安心して暮らせる生活環境の整備

施策② 地域の防災・防犯体制の確立

施策③ 高齢者・障がい者の支援体制の充実

基本的方向2: 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現

施策① 健康づくりの推進

施策② 高齢者の生きがいづくり

基本的方向3: 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成

施策① 地域でのふれあい・つながりのきっかけづくり

施策② 豊かな地域生活の実現

(3) 重要業績評価指標(KPI)

指標	現状値 (平成26年度)	目標値 (平成31年度)
住居専用地域の割合	85.9%	維持
高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数	42件	60件
CoCoバスの利用者数	1,083,278人	1,161,087人
自主防災組織の数	27団体	30団体
刑法犯の認知件数	1,070件	1,029件
認知症サポーター数	3,031人	4,700人
地域密着型サービス事業所数	28か所	31か所
高齢者いきいき活動講座参加率	81.0%	100%
小金井さくら体操の参加者数	400人	700人
65歳健康寿命の延伸	男性 81.6歳 女性 82.5歳	延伸
スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数	15,354人	20,060人
図書館における住民1人当たり図書貸出冊数	8.1冊	8.4冊
公民館の平均稼働率	57.3%	64.3%

基本的方向1: 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進

誰もが安全・安心な生活を送るため、住環境や交通網などの生活に密着した都市インフラの整備を滞りなく進めます。それらハード面での取組とともに、地域の防災力・防犯力の向上はもとより、地域包括ケアシステムを中心とした地域における福祉・介護の体制構築など、ソフト面の取組も進めます。取組の推進にあたっては、自助・共助が重視されていることも踏まえ、地域はもとより、様々な主体と連携することで、取組の効果を高めていきます。

施策① 安心して暮らせる生活環境の整備

- 自然と調和した住環境の整備と保全
- 宅地の細分化防止や公園緑地の整備
- 住居専用地域の維持や地区計画などによる生活環境の保全
- 高齢者の生活状況に対応した住宅施策の推進
- CoCoバス事業の充実

施策② 地域の防災・防犯体制の確立

- 自助・共助による地域防災力の向上
- 総合的な防災教育の推進と防災訓練の実施
- 自主防災組織の結成促進
- こきんちゃんあいさつ運動等、地域の防犯活動の推進

施策③ 高齢者・障がい者の支援体制の充実

- 日常的な見守りと災害時等における支援体制の充実
- ひとり暮らし高齢者の安全・安心の確保
- 地域包括支援センターを中心とした地域ケアの推進
- 在宅心身障がい者に対する生活指導・作業訓練などの充実

基本的方向2: 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現

健康は、誰にとっても、何にも代えがたいものです。今後も、市民一人ひとりが健康づくりに取り組むことを促しながら、同時に、生活関連型産業の育成を図ることで、地元産業とも連携しながら市民の健康意識の向上も図ります。

今後増加が予想される高齢者については、住み慣れた地域で、各々の望むかたちで社会や地域とかがかわることで、自立して、いきいきと暮らすことが大切です。そのため、生涯学習や地域活動、さらには就労機会の提供など、高齢者が自己充足を得られるような活躍の機会を提供します。

施策① 健康づくりの推進

- 小金井さくら体操の充実等、健康づくりの機会提供
- 生活習慣病の予防・健康増進などのテーマ別講習会等の充実
- 全身の健康と関連する歯と口腔の健康維持への支援
- 関係機関等と連携した食育の取組の充実
- スポーツ・レクリエーションを楽しむ地域の実現

施策② 高齢者の生きがいづくり

- 就労を望む高齢者への機会の充実
- 地域活動に参加するための情報提供の充実
- 地域において世代を超えて交流できる機会・場の提供
- 高齢者の生涯学習活動の支援

基本的方向3: 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成

安全・安心に対する取組のなかでも、人と人とのつながりが地域のセーフティネットとして機能することを重視し、現代の家族のあり方やライフスタイルも鑑みながら、それに適した地域におけるつながりを生み出すことを目指します。市民どうしの交流の機会の提供や、そのための場の充実を進めることで、時代にあった地域コミュニティのあり方を検討し、実現に努めます。

施策① 地域でのふれあい・つながりのきっかけづくり

- ボランティア活動などの情報提供・共有の促進
- 働きながら地域活動に参加できる環境づくりの支援
- 他世代とともに活動できる様々な場と機会の充実
- 生涯学習活動を支援するボランティア・コーディネーターの育成

施策② 豊かな地域生活の実現

- 地域の身近な施設としての図書館、公民館の充実と活用
- 市民活動の拠点となる集会施設の安定的運営
- 多様な市民が参加しやすい講座の充実
- 高校生・大学生など青少年グループ活動の支援

小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会
これまでの委員会でのご意見

■基本目標1に関するご意見

基本的方向1：魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進

【施策① 豊かなみどりと良好な住環境を守るまちづくりの推進】

- 公園などを、外から来てもらう魅力にできないか。(第2回)
- 極論をいうと、どこにでもある看板のある店を排除できると守れるのかなと思う。(第3回)

【施策② 駅周辺などのにぎわいを通じたまちの魅力の創出】

- 住み続けたいというアンケートにも日常生活のサービスの充実が求められているので、魅力的な市街地の整備などをもう少し力を入れていけばよいのかなと思う。(第3回)
- 市内で起業・創業している人が増え、税収につなげないと市の財政も厳しくなり、インフラ整備もできなくなる。小さな個店主が増え、そういう店が集まる魅力的なストリートがつけられると、市内の方の消費の受け皿になると、小金井市が復活できるのではないか。(第3回)

【施策③ 小金井の強みを生かした地域経済の活性化】

- 産業が弱いところがある。産業があれば活性化するだろう。住みやすさを伸ばすのか、産業を増やすのか。どちらを選択するのかは考え方だと思う。(第1回)
- 小金井市ならではの物産がつくれるとよい。市民が持っている技能を活かして、これまでにない商品を開発するように考える方が望ましい。(第3回)
- 情報通信研究機構と連携した起業を考えたりすることもありえると思う。(第3回)
- 市内大学で先生の研修会などがあるが、市内の仕出し屋などが注文を受けることができる仕組みがあり、そこで地場野菜をつかうといったことができると思う。教育産業的なことから、市内の産業を広げていくなど、学園都市とよばれているところを活用したい。(第3回)

基本的方向2：小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進

【施策① シティプロモーションの推進】

- 小金井には地域資源はけっこうあるので、もっと生かしていきたい。いまでも地域ごとにながらんでいるので、シティプロモーションは期待している。(第3回)
- 小金井市は分かりやすい魅力を打ち出さないといけない。何か光るものがあれば、小金井市民のプライドにもなるだろう。(第3回)

【施策② 地域資源を活用した交流人口の拡大】

- 観光という言葉は小金井市にはなじまないように思う。観光という言葉は、一時的に外から人を呼び寄せるように感じてしまうので、今住んでいる人が定住するような言葉を選んでほしい。

(第3回)

- 観光を狙って過剰な整備をしてしまうと、ニーズの高いまちの安全・安心を損なう可能性もある。安全・安心を保ちながら市外の企業や資本を取り込めるように考えられるとよい。(第3回)
- 大学があるので交流人口は多いはずだ。交流人口の増加を図りながら、小金井市においては人口が漸増していくような構図、そのための交流人口だという位置づけになるとよい。(第3回)
- 小金井市は人口が増えているので、交流人口を増加させるというよりも、流出している人をとどめるという方が先なのではないか。(第3回)
- 美術館や野川に行ったことのある市民は多くないだろう。市民が市のことを知るように整備すれば、リラックスできるまちづくりにつながり、定住が進む。(第3回)

基本的方向3 : 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現

【施策① 多様な主体が関わりあう環境の充実】

- 行政に任せず、民間や個人がネットワークを活用してやった方がよい。(第3回)
- 学生が住みやすい街として、他の自治体とは違うまちにできるとよい。(第2回)
- 多摩地域は進学を機に上京する人が住むので、増えた人口が流出する理由を把握し、その対応を検討するべきだ。(第1回)
- 学生を大切にすることによって、住み続けたり、戻って来たりする人も増えるのではないか。(第2回)
- テクノロジーが進化しているので、従来の方法とは違う、みんなが参加できる技術的な仕組みを考えればよいのかなと思う。(第3回)

【施策② 交流、協働、連携にもとづいた活動の充実】

■基本目標2に関するご意見

基本的方向1：子どもを安心して生み育てることのできる環境の充実

【施策① すべての子育て家庭への支援】

- 待機児童ゼロを目指しているが、保育園を増やしていると、子どもが減ってきたところでは課題がある。子どもの施策に対する結果は考えさせられるものだと思う。(第3回)
- 高架下に子育てのための施設が新しくできている。そういう場所を活かしていけるとよい。待機児童の問題はある。家を借りた人も、保育園に入れないことで引っ越す人もいるので、そこは解決してあげたい。(第3回)
- スキマにいる児童に対する施設も不足している。小金井にある支援センターも目いっぱい、なかなか利用できないという事情があるようだ。切れ目のない支援といったときには、そこが重要だと思っている。(第3回)

【施策② 地域全体で子育て家庭を見守る体制の構築】

- 子育て支援は行政に任せるのではなく、地域でやれるとよい。(第3回)
- ママ友など、つながりが多い方が子育てしやすい。それが流出の抑制につながるのであれば、コミュニティづくりが施策となるのだろう。(第3回)

基本的方向2：子どもの育ち・学びのための環境の充実

【施策① 子どもたちがのびのび育つ環境の充実】

【施策② 子どもたちがいきいき学べる環境の充実】

- 小金井市は学力が高いが、公立小・中学校の設備は十分でない。府中市に住みたいと思う人もいるようだ。府中は歳入があるので、環境もよいのだろう。(第1回)

基本的方向3：小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現

【施策① 職住近接となるしごとの創出】

【施策② 働きながら子育てができる環境の整備】

■基本目標3に関するご意見

基本的方向1：誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進

【施策① 安心して暮らせる生活環境の整備】

○野川地区の人口は5年後がピークになり、先行して人口が減る。地域の特性を生かして、改善できる方法はないか。古い住宅が多い地区で、高齢化率も高いことに対する対策が必要。(第2回)

【施策② 地域の防災・防犯体制の確立】

○安全・安心は人と人が結びついていの方がよいことであれば、そういった考え方から町会の再構築は考えられるのかもしれない。(第3回)

【施策③ 高齢者・障がい者の支援体制の充実】

○高齢者ががんばらないといけないと思う。世帯人員が少ないので、独居老人のケアをどうするか考える必要がある。(第2回)

基本的方向2：誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現

【施策① 健康づくりの推進】

【施策② 高齢者の生きがいづくり】

○元気な高齢者の活躍の場が今後求められると思う。リタイア後に小金井市に戻ってくるタイミングで、自分のやりたいことの支援や再スタートの支援など、ターゲットによって支援のあり様があってよいと思う。(第3回)

基本的方向3：生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成

【施策① 地域でのふれあい・つながりのきっかけづくり】

○自治会活動は地域に住む人と知り合うきっかけとなっている。人間関係をつくることはむずかしいが、そういう活動を行政が支援するだけでもよいかもしれない。(第3回)

○最低限、地域や世代を問わず、どこでだれが生活しているのかが分かるよう、行政が町会に入るように促すことはできないか。ほどよい拘束感が生まれるとよい。(第3回)

○独り暮らしで働いている人は、コミュニティのメリットを考えたことのない人もいるだろう。そのような人も巻き込んでコミュニティづくりをするのはどうすればよいのかと感じた。(第3回)

【施策② 豊かな地域生活の実現】